

2 水がとどくまで

⑤水を配る



浄水場でつくられた、きれいで安全な水をムダなく届けるために、さまざまな取組みをしています。



▼水管理センター(水の流を調節する)▼

水道局の中にある水管理センターでは、浄水場から家庭までの水の流を管理しています。

市内に設置した約 300 個のテレメーターから送られてくる情報を使って、水管理センターから電動弁を動かして、水の流を調節しています。

また、火事になったときには、その近くの場所の水の出る量を増やして火を消す手伝いもしています。

水管理センターの人たちは、24 時間交代制で、みんなのところに水を確実に配るために働いています。

▼じゃ口の水を検査する▼



安全で安心して飲める水がとどいているか検査しています。

他の政令指定都市※にない 福岡市だけのシステム

昭和 53(1978) 年の水不足の経験をくり返さないよう、浄水場から家庭までの水の流を管理する水管理センターの運を昭和 56(1981) 年に開始しました。

※政令で指定された人口 50 万人以上の都市のこと。

いろんな人が24時間休みなく働いてくれるおかげで、きれいで安全な水がいつでも使えるんだ。



▼水もれをみつける▼



地下で水もれがないかどうか、専用の道具で音を聞いて調べています。

▼配水管をとりかえる▼



水もれがおきないように、古くなった配水管を計画的にとりかえています。

浄水場でつくられた水のうち、配水管や給水管からもれて、家庭や学校まで届かない水の割合を漏水率といいます。福岡市の漏水率の低さは世界トップです。

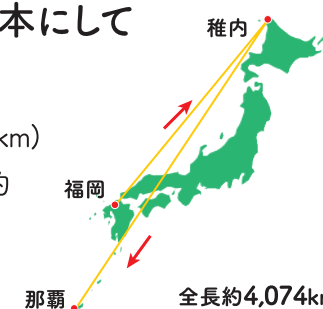
水もれの調査や古い管のとりかえをしているから、漏水率が低いんだね。



水道マメ知識②

福岡市内にある配水管を一本にしてのばしてみると…

福岡市から北海道稚内市(約 1,600km)まで行ってさらに沖縄県那覇市(約 2,400km)に行ける距離より長いです。



(ねらい) 浄水場でつくられたきれいで安全な水を家庭に確実に配るために、24時間休みなくいろいろな場所で様々な仕事をしていることに気づかせてください。

(解説) ●多くの共同住宅や小・中学校などでは、水を一旦貯水槽にため、ポンプで屋上の高置水槽にくみ上げて、各階へと送っています。(貯水槽式給水)
●最近では、貯水槽を経由せず配水管から直接給水でき、いつでもフレッシュな水が使用できる直結式給水を採用されている建物も多く、改築工事に合わせて、直結式給水に切り替わっている学校もあります。
●老朽化した配水管は、外面からの腐食により漏水が発生するおそれがあり、内面もサビこぶにより水の流が悪くなるため、古くなった配水管は計画的に新しい管にとりかえています。